

「おじちゃんせんせい、みてますか」

卒園児 小学一年生

「おじちゃんせんせい、だいたいだいーいすき。いっぱいありがとうございます。」

いま、ぼくは、このことばをおじちゃんせんせいにつたえたいです。

このほんは、ぼくのかよっていたほいくえんのせんせいをもとにしたおはなしです。とてもだいすきなほんで、なんかいもなんかいもよんでいます。みんな、おじちゃんせんせいのおひぎがだいすきでいつもとりっこでした。おひぎにすわると、あたたかくて、こころがほっとするからです。

けいたくんは、おひるねがきらいです。おかあさんがこいしくなっていないと、おじちゃんせんせいは、

「がまんせんでええぞ。おもいきりなげや。」

といつてずっとおんぶしてくれます。けいたくんは、きつどうれしかつたとおもいます。おじちゃんせんせいのせなかは、あたたかくておちつくからです。ぼくだったら、
「なかないで、はやくねなさい。」といつてしまうかもしれません。

けいたくんは、かけっこもにがてです。でもおじちゃんせんせいが、いっぱいおうえんしてくれたから、ゆうきをもらえてはしる事ができました。

このほんをよむとほいくえんのことをおもいだします。おじちゃんせんせいにあいたくなくて、ちよっとさみしくなります。おじちゃんせんせいは、びょうきでおそらになりつてしまったからです。ぼくは、もう一ねんせいになりました。おおきくなったし、がんばっているすがたをみてもらいたいです。そしておじちゃんせんせいのように、だれにでもやさしくできるひtoになりたいです。

「おじちゃんせんせい、これからおそらのうえからおうえんしてね。ぼくね、ゆうきがでないときもあるんだけど、けいたくんみたいにあきらめないでがんばるからね。」

